

治水・防災

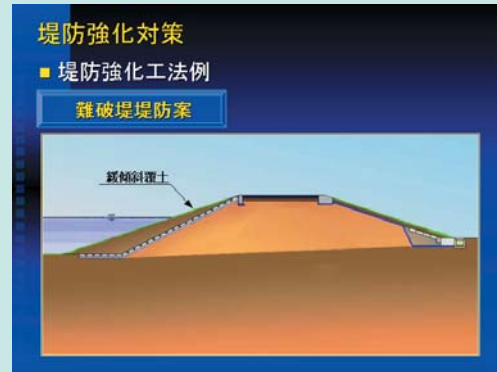
現状の課題

- これまでは、一定規模の大雨を目標にして洪水を早く下流へ流せるよう堤防を作り、川を掘るなどの整備を行ってきました。
- しかし、平成12年の東海豪雨のように、私たちの想定以上の豪雨が起っています。
- 土砂でできた堤防は、洪水に対して万全ではありません。
- 一方、市街地では高い堤防のすぐ近くまで家が建ち資産が集中し、ひとたび堤防が壊れると(破堤)、人命が失われ家屋が壊れるなど壊滅的な被害が生じます。
- 破堤による被害の深刻度(被害ポテンシャル)は今も増え続けています。
- また、川幅が狭くなっている所(狭窄部)の上流の盆地など、洪水被害を受けやすい地域があります。



今後の整備に向けて

- 対象洪水の規模を設定するのではなく、いかなる大雨に対しても破堤による被害の回避・軽減することを目標とします。
- 避難経路などを示した地図(ハザードマップ)の作成や地下街などでの洪水時の避難・誘導体制を進めます。
- 被害ポテンシャルを低減させるため、土地の利用方法や流域の貯留・浸透機能を強化します。
- 堤防を、できるだけ壊れにくいよう強化します。
- 狭窄部上流の浸水被害の軽減を図ります。



利水

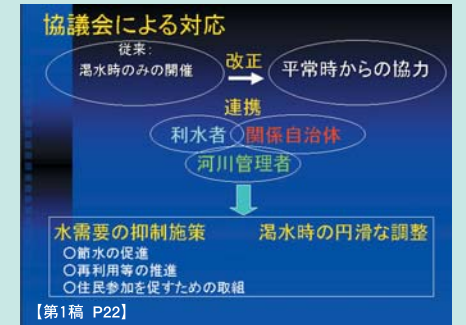
現状の課題

- 淀川水系の水は、滋賀県や京阪神地域等の約1600万人の暮らしと経済を支えてきました。
- 高度経済成長や人口の増加によって水の需要が急激に増え、これに応えるため、ダムや琵琶湖総合開発事業などの整備を行ってきました。
- 近年では、工場での水の再利用が進むとともに、都市化に伴って農地面積が減り人口の伸びも鈍るなど、水の需要は変化しています。
- 一方、近年、雨が降る量が少なくなり、渇水が度々起こる傾向となっています。



今後の整備に向けて

- 水の利用の実施を踏まえ、水を使用する権利の見直しと用途間転用などの合理化に努めます。
- 既存のダムや堰について、貯水容量の効率的な配分(再編)や運用方法の見直しを行い、水資源の有効活用を図ります。
- 利水者、自治体、住民等と連携し水の利用に関する協議会を組織して、平常時から水の需要を抑制するための方法を検討します。



利用

現状の課題

- 河川敷は、過密化する市街地では貴重なオープンスペースであり、地域の要請に応え、グラウンド等の整備が進められてきました。
- 一方、河川敷での人口的な施設の整備は、川の生態系に影響を与えています。



今後の整備に向けて

- 河川敷は、「川でなければできない利用・川に活かされた利用」との考えに立ち、グラウンド等の本来河川敷以外で利用するものは縮小していくことを基本とします。
- 一方、住民や自治体等からはグラウンドなどのスポーツ施設に対する要望が強く、学識経験者や沿川自治体、地域の住民等からなる河川利用委員会(仮称)を設置して広く意見を聴き、個々の案件ごとに判断します。

